

令和 4 年度 自己点検・評価

項 目	点検 結果	内容・改善等
プログラムの履修・修得状況	○	<p>令和 4 年度の修了者は 270 名であった。これにより通算の修了者は令和 3 年度の 91 名とあわせて 361 名となっている。</p> <p>本教育プログラムの学内周知を積極的に行うことで、履修者数も昨年度の 2.6 倍と、大幅に向上している。</p> <p>次年度以降も履修者の増加に向けて、新年度オリエンテーションでの周知や学内広報を計画しているところである。</p>
学修成果	○	<p>「情報処理」では、ICT 関連事象に対して敬遠しがちな学生に対しても、この認定プログラムを意図した授業を展開することで、AI やデータサイエンス向けの教材をより身近なものとして採り上げることができた。今後さらに「資格認定」という具体的な学習目標を有効に活用したい。</p> <p>「教養数学」では、(運動生理学等に関する研究をまとめる際のデータの処理・表現について意識させながら、) 統計的な手法によりデータを整理し表現する力、複数の標本集団の差異の有無について考察する力を養うことを目標として指導し、多くの学生が統計的な手法の基礎を身に付けることができた。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○	<p>授業科目の開講時限ごとに授業アンケートを実施している。また、修了者に対して本教育プログラムを通じた学びについてアンケートを実施している。それらの結果からは、学生たちは概ね学修内容を理解するとともに、数理・データサイエンス・AI に関する知識やスキルの向上を実感していると認識している。更に教育効果が向上するよう、委員会および授業担当者間で意見交換を行っている。</p>

<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>○</p>	<p>修了者に対して「本教育プログラムを通じた学びについて」のアンケートを実施し、その結果からは、本教育プログラムを推奨したいと考えている学生が大半であった。また、本教育プログラムの修了者には、修了式を開催して、修了証を電子データで交付しており、成果が修了証という形となることも、推奨したい理由となっているようである。</p>
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>—</p>	<p>本プログラムは令和3年度入学生から開始となっており、本教育プログラムの修了の卒業者は未だ出ていない。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>○</p>	<p>卒業生が在籍している事業所や学内合同業界研究セミナー参加企業に対してアンケート調査を実施している。採用側が在学中に身につけてほしい ICT スキル等の意見を聞き取っており、今後の本教育プログラムの教育内容を充実するための資料としている。</p>